

志田林三郎博士顕彰会会報

第1号 平成22年12月1日発行

志田林三郎博士顕彰会総会 が開催されました



松瀬貢規明治大学教授の講演の様子 提供：多久市役所

平成22年8月19日(木)、多久シティホテル松屋にて志田林三郎博士顕彰会設立総会が開催されました。当日はこの会の仕掛け人である江口吉則多久市教育委員長が、志田博士が幼いころ母を手伝ってまんじゅうを売っていたことにちな

み、「博士まんじゅう」の商標登録を行ったことを報告、今後商品開発を行い、地域おこしと志田博士の知名度アップにつなげたい、と抱負を語りました。続いて会長である横尾俊彦多久市長が「今日がキックオフの日。一般にはあまり知られていない郷土の偉人にスポットを当てていきましょう。」と力強く挨拶しました。続いて前電気学会会長で多久市出身の松瀬貢規明治大学教授による「志田林三郎と電気工学」と題した基調講演が行われました。志田博士の業績を紹介するとともに、志田博士から始まった電気工学の発展とこれからの低炭素社会の実現に向けての展望を話されました。市民の皆さんや佐賀県内で歴史研究に取り組まれている方々、地元の学校の先生方など約70名の方々が来場され会場は熱気に包まれていました。

その後懇親会が行われ、『先見の人 志田林三郎の生涯』（株式会社ニューメディア）の著者である信太克規佐賀大学名誉教授が「修学旅行生が多久を訪れるようになるぐらい、志田博士について広く発信していきましょう」とスピーチしました。参加者は志田博士を通じた交流を楽しんでいました。

第1回志田林三郎博士顕彰会役員会が開催

平成22年9月21日(月)、多久市中央公民館第1研修室にて第1回志田林三郎博士顕彰会役員会が開催されました。出席者は会長である横尾俊彦多久市長、副会長の中川正博多久市教育長をはじめ理事候補と事務局あわせて8名が出席し、理事7名と企画委員8名が会長である横尾俊彦多久市長によって選任されました。理事の皆さんは以下のとおりです。(敬称略、企画委員の顔ぶれは後日ご紹介します)

古賀孝信(別府一区区長) 塚本泰徳(校長会会長) 平間智治(市議会議員) 最所和泉(文化連盟副会長) 西山智恵子(市地域婦人連絡協議会会長) 江口吉則(市教育委員長) 志佐喜栄(郷土資料館)

そのほか顧問などの人選を話し合いました。また、広く会員を募集すること、会員には会員証を配布すること、会報を作成すること、企業や電気学会から講師を派遣してもらい、児童・生徒向けの講座などイベントを開催することなどが話し合われました。

さらに、志田博士の誕生日である12月25日に第1回志田林三郎記念ロボットコンテストの開催が発表され、その概要が明らかにされました。詳しくは次ページで紹介しています。

第1回志田林三郎博士記念ロボットコンテスト開催決定！

平成22年12月25日、第1回志田林三郎博士記念ロボットコンテストが開催されます。多久市内の小学4年から6年までの児童が対象で、チームないし個人で参加してもらい、ザリガニを模したロボットを製作して餌に見立てたフィルムケースを巣穴に持ち込む、というゲームで対戦を行います。会場は多久市立中央中学校体育館で、時間は13時～16時が予定されています。当日会場には志田博士を紹介するコーナーを設置し、電気について楽しく学びながらその先駆者であった志田博士に思いを寄せ、親しんでもらいます。沢山のご参加、お待ちしております！

志田林三郎をめぐる人々 第1回 多久茂族^{しげつぐ}

このコーナーでは、志田林三郎博士に大きな影響を与えた人々を紹介し、いろんな側面から志田博士の人間像を探っていきます。第1回は多久茂族です。



多久茂族

(多久市郷土資料館蔵)

多久茂族（1833～1884）は佐賀藩多久領最後の領主で、当時西洋技術の導入と富国強兵政策を行っていた佐賀藩主鍋島直正のもと、長崎仕組頭人や弘道館頭人を歴任するなど佐賀藩政においても要職を担っていました。そのため新しい時代に向けての人材育成の必要を強く感じていたのでしょう、志田林三郎少年に直接面会して算術の問題を出し、その才能を確かめています。

このとき林三郎は最初足が痛いと言って隣室に控えていた母フミをはらはらさせたものの、茂族は優しく「苦しゅうない」と言って楽にさせ、その懐の深さにフミは感激したと伝えられています。すっかり調子を取り戻した林三郎は難しい問題をすらすらと答え、あまりに即座に答えるため「答えがまちがっているのではないか」と問われた林三郎は「自分は間違っていない、そちらが間違っている」と堂々と応じ、さらに周囲を驚かせたのです。

その後、多久領の学校である東原庠舎で学んだ林三郎は、優秀な成績で卒業し、官費で東京へ行き学びます。このとき佐賀からは30人ほどが官費で東京遊学をしていますが、士分でないものは林三郎ただひとりでした。林三郎の優秀さは身分のハンデを跳ね返すほどのものであったのですが、そこには茂族の後押しもあったのかもしれませんが。

茂族は明治以後、戊辰戦争で官軍の参謀として戦功をあげたのち、浜松県や伊万里県（のち佐賀県）の権令（県知事）を歴任、51歳で死去し西多久町円通寺に葬られています。

(多久市郷土資料館 志佐 喜栄)

志田林三郎博士顕彰会事務局 〒846-8501 佐賀県多久市北多久町大字小侍大字小侍7番地1

多久市中央公民館内 担当：戸川

TEL 0952-74-3231 FAX 0952-74-3284

会報についてのお問い合わせ 〒846-0031 佐賀県多久市多久町 1975 多久市郷土資料館 担当：志佐

TEL&FAX 0952-75-3002

※ この会報の名称を募集しています！アイデアがある方、会報担当の多久市郷土資料館 志佐 までどしどしお寄せください。お待ちしております！